

最近、いきものの記が生徒に乗っ取られそうだ。私も負けじと大好きなカメムシを紹介させて頂こう。

Vol.74で登場した“子育てをするカメムシ”の卵が無事に孵化した！産卵から12日後のことだ。母カメムシが抱きかかえる卵からちっちゃい赤ちゃんが一斉に生まれた。白くて小さくて、なんて可愛いんだろう！肉眼ではよく見えないぐらい小さいけど、ちょこちょこ歩く様子が実に愛くるしい。孵化までずっと卵に寄り添っていた母カメムシは、無事に卵が孵って一安心…とはいかない。これから子供のためにエサを運ばなければならないのだ。ヒメオドリコソウのタネをケースに入れてみると、母カメムシが産卵後初めて子供たちの近くから離れて、タネを運び始めた。翌朝見ると、巣にはたくさんのタネがあった。1つずつしか運べないタネを母カメムシは何往復もして運んだのだ。タネはアリなどにも持っていかれてしまうので、自然下では他の生物との競争になる。また、巣にエサを運ぶ途中でも危険がいっぱいだ。

子のために危険を冒しながら食べ物を運ぶ母と、母の帰りを待つ子たち。小さな小さな虫の世界にもこんなドラマがあったなんて。私も家では子育て真っ最中なので（命がけでご飯を運んではいないが）、「お前もがんばれよ。」と母カメムシに声をかけてあげたくなった。



孵化の瞬間 産卵から12日後、わずか1.3mmほどの小さな幼虫が誕生した。孵化したばかりの幼虫はからだ半透明で美しい。母カメムシは孵化の間もずっと抱きかかえるように卵に覆いかぶさっていた。4月19日



孵化したばかりの子を保護する母カメムシ 幼虫が1匹母親に乗っかっていて可愛い。幼虫は活発に動き回るが遠くに行くことはしない。



ヒメオドリコソウのタネを運ぶ母カメムシ 産卵後初めて子供のもとから離れた。しばらく自分が栄養補給した後、針状の口をタネに刺して上手にタネを運んでいた。



巣に運び込んだタネを1齢幼虫に与える 子供が食べている姿を見守っているように見えて微笑ましい。幼虫は孵化直後より赤みが増した。後ろに見える白い塊は卵の殻。4月20日



ヒメオドリコソウのタネを吸う2齢幼虫 矢印の部分がストロー状の口。細い茶色の針が“口針”で、透明の鞘に包まれている。2齢幼虫になった頃から徐々に母親のもとから離れて散らばり始める。4月25日



脱皮したばかりの3齢幼虫 鮮やかな色彩が非常に美しい。4月27日